

2024年10月4日
ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社

BAT、「第59回日本アルコール・アディクション医学会学術総会」にて たばこハームリダクションがもたらす世界的インパクトを強調

BAT のスモークレス製品の最新検証と、
たばこハームリダクション推進のための業界の役割について講演

BAT ジャパン（正式名称：ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社、本社：東京都港区、社長：エマ・ディーン）は、9月20日（金）に開催された「第59回日本アルコール・アディクション医学会学術総会」のシンポジウム『**Future of tobacco and other nicotine-containing products: towards a smoke-free society たばこ・ニコチン含有製品の未来：煙のない社会に向けて**』に参加し、BAT のリサーチ&サイエンス・ディレクターであるジェームズ・マーフィーが基調講演を行いました。



ジェームズ・マーフィーは基調講演にて、紙巻たばこの喫煙を続ける成人^{※1}喫煙者に対して、加熱式たばこやオーラルたばこなど、リスク低減の可能性を秘めたスモークレス代替品への完全な切り替えを促すことで、「スモークレスな世界の構築を通じて A Better Tomorrow™（より良い明日）を創造する」という BAT のパーパスを効果的に実現していくと述べました。成人^{※1}喫煙者によるスモークレス代替品への移行が世界的に進む中、BAT のリサーチ&サイエンス部門は 1,750 人の研究・開発専門家を擁し、紙巻たばこの喫煙と比較し、スモークレス代替品の相対的なリスクプロファイルを検証する科学研究領域を開拓し続けています。

『たばこハームリダクションのためのスモークレス製品の科学的評価フレームワーク』と題したその基調講演では、科学的に認知されている研究結果と矛盾する一般的によくみられる誤解に言及しました。ニコチンが喫煙関連疾患の主な原因と誤解されがちですが、これまでの多くの科学的検証結果によると「紙巻たばこの喫煙が引き起こす害の要因の大半は、たばこ葉の燃焼により発生する煙に含まれる他の有害性物質である」と明らかにしました。

たばこハームリダクションの採用による公衆衛生上の具体的なメリットに関する実例も紹介しました。スウェーデンやニュージーランドのような国々は現在、喫煙率 5%未満の目標達成を目前に控えています。これはスモークレス代替品の重要な役割をこれらの国々の政府が認識し、成人^{※1}喫煙者の切り替えを可能にしたことで推進されました。「ヨーロッパで最も喫煙率が低く、肺がん死亡率も低いスウェーデンのたばこハームリダクションのアプローチを他国も採用した場合、今後 10 年間で死亡者が 350 万人減少すると推定されています」。

※1 「成人」とは、日本国内においては「法に定められる喫煙が可能となる年齢（満 20 歳）に達した者」を指します。

基調講演の結びとして、スモークレス代替品の規制を段階的かつ持続可能にする必要性を訴えました。全ての規制や政策の決定は科学的根拠に基づいたものでなければならず、燃焼式たばこと比較した製品のリスクに見合ったものでなければならぬと強調しています。喫煙関連の害を低減させる試みの過程において、スモークレス代替品の利点を最大限に生かし、効果的で適正な規制を実施するよう求めました。

「A Better Tomorrow™（より良い明日）」のパーパス実現に向けて、現在、BAT ジャパンの収益に占めるスモークレス代替たばこ製品の割合は約 50%にまで成長しています。今後も BAT ジャパンは進化する消費者ニーズに沿った幅広いスモークレス代替品を提供し、たばこハームリダクションを推進していきます。

※1 「成人」とは、日本国内においては「法に定められる喫煙が可能となる年齢（満 20 歳）に達した者」を指します。

BAT について

BAT（プリティッシュ・アメリカン・タバコ）は、1902 年に設立された、世界有数のマルチカテゴリー消費財企業です。スモークレスな世界をつくり、「A Better Tomorrow™（より良い明日）」を実現することを目指しています。紙巻たばこは深刻な健康リスクをもたらす、これらのリスクを回避する唯一の方法はその使用を始めないこと、または禁煙することだと私たちは明確に表明し続けています。2035 年までに売上の 50%をスモークレス製品から生み出すことを目標としており、スモークレスな世界をつくるため、喫煙を続けようとする人々に対して、科学的根拠のあるスモークレス代替品への完全な切り替えを推進しています。

BAT ジャパン 会社概要

社 名： プリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社

所在地： 〒107-6220 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウンタワー20F

代表者： 社長 エマ・ディーン（Emma Dean）

概 要： BAT ジャパンは、世界有数のマルチカテゴリー消費財企業である BAT グループの一員です。日本では 1984 年にたばこ販売事業を開始。2001 年に BAT ジャパンと社名変更し、現在では約 100 銘柄の紙巻たばこ、加熱式たばこ、オーラルたばこ、ベイプ製品を輸入・販売しています。日本での主カブランドには、ケント（KENT）、クール（KOOL）、ラッキー・ストライク（LUCKY STRIKE）、ネオ（neo™）、グロー（glo™）、ベロ（VELO）、ビューズ（Vuse）があります。

W E B： <https://www.batj.com/>

【参考資料】

■ シンポジウム発表抄録

プレゼンター：ジェームズ・マーフィー BAT リサーチ&サイエンス ディレクター

テーマ：「たばこハームリダクションのためのスモークレス製品の科学的評価フレームワーク」

たばこハームリダクションとは、燃焼式たばこによるリスクを認識し、喫煙に伴う健康への影響を最小限に抑えることを目的とした公衆衛生政策である。紙巻たばこを吸い続ける喫煙者に対して、リスク低減の可能性を秘めた代替形態のたばこやニコチン製品への切り替えを促すものである。2014年に日本で導入された非燃焼式の加熱式たばこは、燃焼式たばことニコチン製品の代替形態である。非燃焼式であり、燃焼する代わりに熱を利用してエアロゾル（蒸気）を発生させ、紙巻たばこの煙より低レベルの有害性物質を含む。日本は加熱式たばこの主要市場であり、加熱式たばこ製品は今やたばこ・ニコチン市場全体においてかなりのシェアを占めている。

過去10年間に、紙巻たばこの喫煙との比較による加熱式たばこの影響について相当量の科学研究が行われたが、私たちは従来の紙巻たばこに対する、代替ニコチン・たばこ製品の潜在的なリスク低減の可能性を実証する「証拠の積み付け」アプローチを構築してきた。明確で支持的な規制、適切に文脈づけられた科学的根拠に基づく啓発、製品のイノベーション、消費者のアクセスと相まって、これらの製品には、日本およびそれ以外の国々において、紙巻たばこの喫煙に関連するリスクを大幅に低減させる可能性があるかと確信している。

■ ジェームズ・マーフィー

BAT リサーチ&サイエンス ディレクター。2023年2月に経営委員会に加わり、2023年3月1日に現職に就任。日本の奈良先端科学技術大学院大学で有機合成高分子化学を用いた薬物送達媒体の構築に関する博士研究を修了した後、2005年にBATに入社。様々な上級職を歴任したのち、2020年から2023年まで、米国地域を拠点とする米国科学研究開発担当の執行役員副社長を務める。Vuse3種に対して、当社初のベイプ製品への米国食品医薬品局（FDA）からのマーケティングオーダー獲得を統括。これは、BATのA Better Tomorrow™（より良い明日）に向けたハームリダクションの取り組みにとって、大きな節目となった。2013年から2014年にかけては、初代VYPE（ベイプ製品Vuseの前身）ローンチの製品開発リーダーを務め、BATの新カテゴリー開発に当初から参加。BATのリスク低減実証責任者として、喫煙と比較した新カテゴリー製品のリスクプロファイルを評価するために、9段階の科学的評価フレームワークを開発。また、それより前は当社の新カテゴリー製品（glo、Vuse、VELO）の相対的なリスクの可能性を把握するための科学的評価を主導している。

BATのA Better Tomorrow™（より良い明日）ストーリーの浸透に熱心に取り組む。メディア、規制当局、外部の科学コミュニティとの国際的な科学的取り組みを主導。ワシントンDCの米国科学アカデミーでの発表や、世界ニコチンフォーラムなどの主要な業界イベントで基調講演を行い、パネル司会も務める。